



2025.08.04
J-PEAKSキックオフシンポジウム

プラネタリーヘルスの実現を目指し、世界を牽引する大学へ

長崎大学長 永安 武

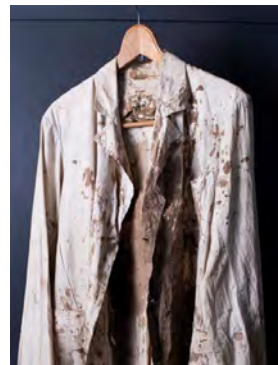
連携大学：宮崎大学、鹿児島大学
参画機関：大阪公立大学、北海道大学、東京大学
国立感染症研究所・国立国際医療センター
海洋研究開発機構



1857 The Birthplace of Western Medicine in Japan



1945



Dr. Takashi Nagai

The Atomic Bomb Experience

Devastated by the Atomic Bombing during World War II and the subsequent reconstruction

2008



A Nobel Prize Laureate from NU

Dr. Osamu Shimomura, an NU alumnus, was awarded the Nobel Prize in Chemistry for discovering green fluorescent protein

2024



Nobel Peace Prize for Nihon Hidankyo

Dr. Masao Tomonaga, an atomic bombing survivor in Nagasaki, studied for over 50 years on the ability of radiation exposure to induce leukemia and cancers.

“長崎大学は、長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、
地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的发展に貢献する”





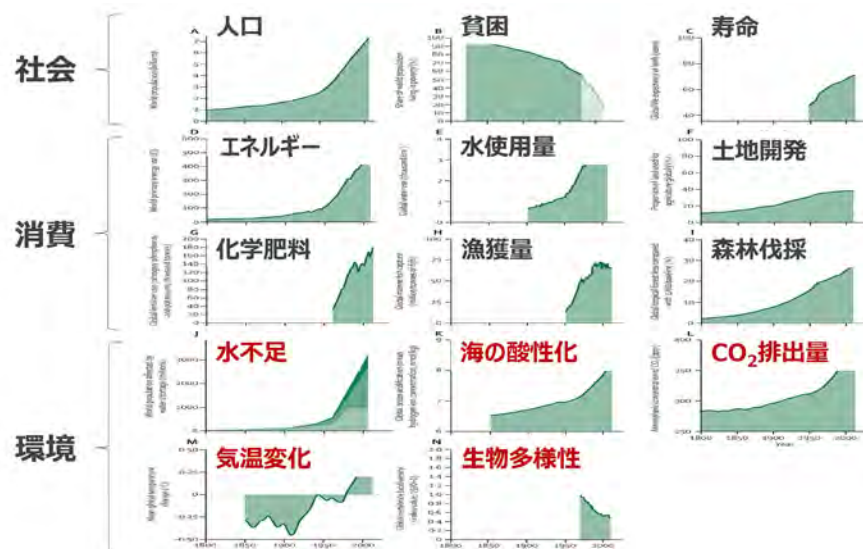
The Rockefeller Foundation–Lancet Commission on planetary health

Safeguarding human health in the Anthropocene epoch:
report of The Rockefeller Foundation–Lancet Commission on
planetary health

Sarah Whitmee, Andy Haines, Chris Beyrer, Frederick Boltz, Anthony G Capon, Bráulio Ferreira de Souza Dias, Alex Edeh, Howard Frumkin, Peng Gong, Peter Hadd, Richard Horton, Georgina M Mace, Robert Morten, Samuel S Myers, Sana Nishtar, Steven A Osofsky, Subhojit Kundu, K Pattabaij, Marissa J Poirier, Cristina Romanelli, Agnes Sautat, Jeannette Vega, Derek Yach

「人類の未来を形作る政治、経済、社会などの人間システムと、人類が繁栄できる安全な環境
限界を定義する地球の自然システムに賢明に
配慮することで、達成可能な最高水準の健康、
福祉、公平性を世界中で達成すること」
と定義されている。

20世紀後半の大加速



Whitmee S, et al. Lancet. 2015 14;386:1973-2028

2023

水・大気・植物・動物のみならず
人・食料・資源・お金・情報・化学物質・病原体
あらゆるものがハイスピードで
地球という境界内を循環する現代

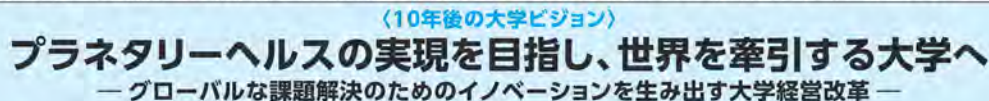


地球の不健康は一つの専門領域だけでは解決が困難

問いを結集しその答えに向かって進む
 ブラネタリーヘルスマインドを持つ
 人材を輩出することが必要



連携大学：宮崎大学、鹿児島大学 参画機関：大阪公立大学、北海道大学、東京大学、国立感染症研究所・国立国際医療研究センター、JAMSTEC



長崎大学は、人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群に取り組む **超領域型融合研究** を推進し、科学的知見に基づく解決策を見出し、その社会実装を進める総合知人材を育て、**ブルーネタリーヘルスの実現*** を牽引する。

※地球温暖化や水資源・食糧問題・パンデミックの発生等の地球上の問題を解決するため人間の意識・行動・価値観の変容を促す新規概念であり、地球の健康を支えるための答えを模索する取り組み。

- ① 感染症研究を中心としたグローバルヘルス領域(BSL4研究施設、ロンドン大学とのJoint PhD Degree Program)
- ② 病原菌致・核兵器廃絶に取り組むグローバルリスク領域(福島復興支援事業を含む)
- ③ COI-NEXTグローバルエコノミーを展開するグローバルエコロジー領域
- ④ 駐在型海外拠点(ケニア・ベトナム・ブラジル)
- ⑤ プラネタリーヘルス学識:
Doctor of Public Healthを世界に輩出(外務省・厚生労働省・JICA・NGCM-NLIDとの強い連携)

- ① 持続的イノベーションを生み出す経営基盤強化
- ② 長崎一宮崎一鹿児島の西南九州3大学連携を起点とした国際ネットワークの形成と国際共同研究推進
- ③ グローバル研究推進体制の強化と支援人員増強
- ④ 大学院生および若手研究者確保のための支援体制・研究環境の整備
- ⑤ 国際共同研究強化のための海外拠点の増設と機能強化
- ⑥ 3領域に研究セクターを配置し超領域型融合研究を展開

1. アドバイザリーボードの設置
(海外機関・企業の有識者含む)
2. Development Office の設置
によるファンドレイジング
3. 海外拠点の活用
4. 国際アルムナイネットワークの拡大
5. ネーミングライツ、不動産活用など
収益事業の強化・拡大
6. エンダウメント投資の拡大

1. 若手研究者の重点的支援
2. 研究時間の量と質の確保
3. キャリアパス支援
4. 博士課程学生の処遇改善
5. 外国人研究者・留学生支援

1. URAの重点的配置・育成
2. 海外グラント支援部門設置
3. 国際化対応事務職員の増加
4. 共用設備の確保・技術職員の育成
5. 融合研究ファシリテータ
教員配置
6. 海外リエゾン教員配置

第2の学位プログラム：グローバルリスク博士課程(定員5名) 令和8年開始
第3の学位プログラム：グローバルエコロジー博士課程 令和11年開始に向けた準備

ヘルス・リスク・
エコロジーの
超領域型融合研究を推進



感染症専門家集団に加え、データサイエンス、教育分野の人材が協働して次のパンデミックに備え、**持続可能な人類社会を構築**

1. パンデミック総合研究センター設置(施設整備事業)
2. 宮崎大学・鹿児島大学とのスピルオーバー研究協働チーム形成
3. 気候変動の健康影響研究基盤構築
(JAMSTEC、東京大学大気海洋研究所との連携構築)
4. 国際感染症情報データ部門の設置
5. 感染症ITモニター部門の設置

感染症・核拡散・国際紛争・地球規模の環境変化などによりグローバルリスクが深刻化、複雑化するメカニズムを解明し、解決に資する画期的政策を世界に発信・実現

1. グローバルリスク研究センター本格稼働
2. 国際機関・海外のリスク研究所との連携協定締結
3. 国際会議の開催誘致
4. 福島未来創造センターとの協働並びに福島国際研究教育機構F-REI・福島医科大学・福島大学との連携強化
5. 鹿児島大学地域防災研究センターとの社会インフラレジリエンス研究推進

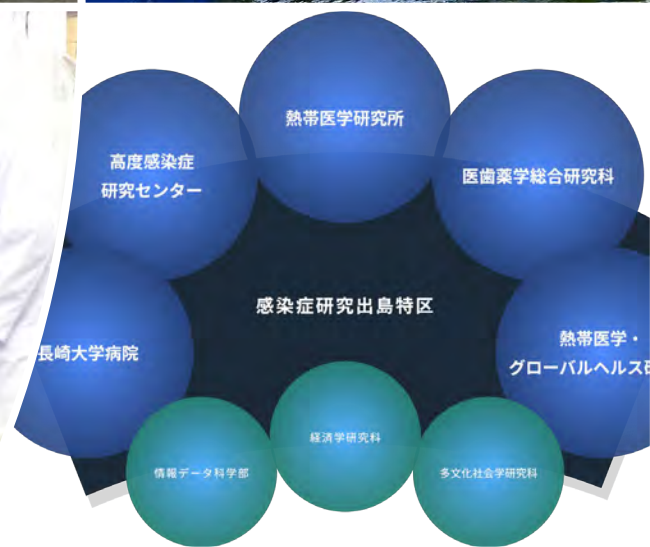
海洋資源・食料・エネルギー・水・炭素の循環型社会構築のための新たな発想でのイノベーションを行い、地球の健康を守る科学を推進し、社会実装を実現

1. 地球未来オープンリサーチセンター設置
2. 里海カーボンニュートラルモデル構築加速
3. 宮崎大学GX研究センターモデルとの協働による洋上風力・潮流・地熱・太陽光発電・蓄電・水素製造技術の連結
4. 宮崎大学農学部海洋生物環境科学科との共同研究
5. 水資源循環総合研究チームと森林緑地環境研究の融合

Global Health

世界の健康問題解決に貢献 する研究、人材育成

- ・ 感染症研究出島特区 (DIDA)
 - ・ 熱帯医学研究所、高度感染症研究センター、など5部局を糾合
 - ・ SCARDAワクチン研究開発拠点
- ・ 卓越大学院プログラム
 - ・ JDプログラム (ロンドン大学)
- ・ 先端創薬イノベーションセンター
- ・ 長崎大学病院
 - ・ 臨床研究中核病院
 - ・ 遠隔医療

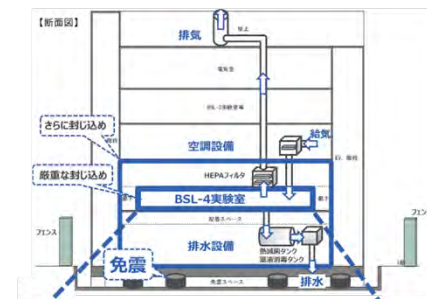


高度感染症研究センター実験棟（BSL4施設）

National Research Center for the Control and Prevention of Infectious Diseases (CCPID)



BSL-4 facility



BSL-4 Lab



Front chamber
Protective clothing
room
Chemical shower
room

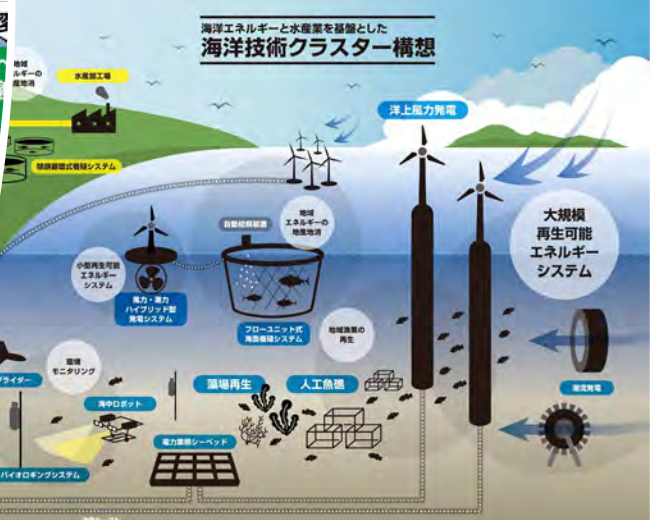


長崎丸（総トン数1131トン、全長68.93m、航海速力13.5ノット）



Global Ecology

- 海洋再生エネルギー開発・利用
 - 浮体式洋上風力、潮流発電
- 養殖産業化共創拠点（COI-NEXT）
- 環境保全・政策（海洋、大気）
 - ブルーカーボン、グリーンカーボン
 - 藻場再生、CO2定量化（JST CREST：戦略的創造研究推進事業）
 - 長崎オープンイノベーションカーボンニュートラル拠点



Global Risk

災害・被ばく医療科学分野

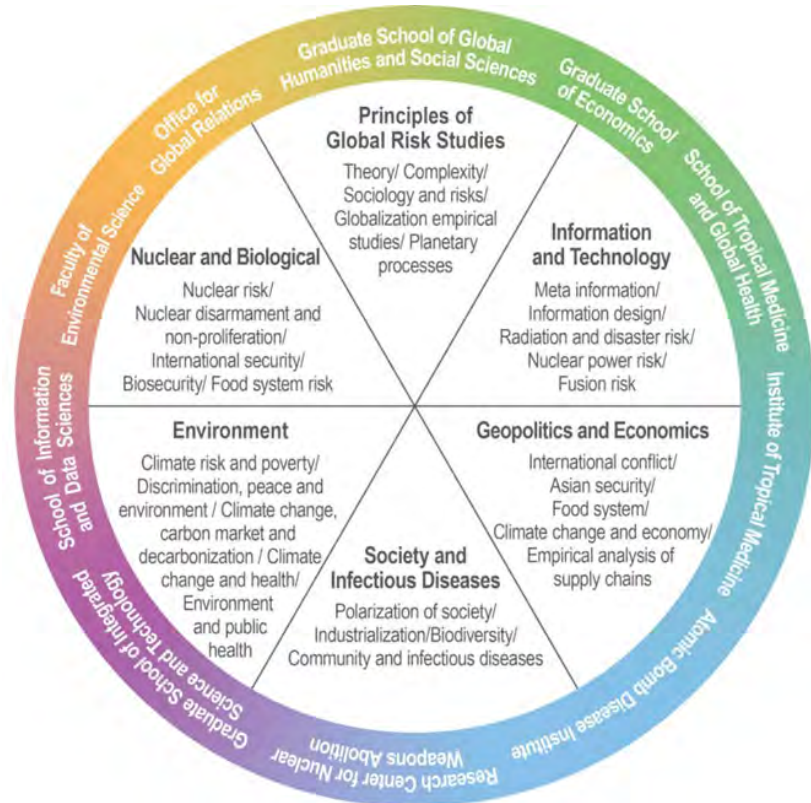
- ・ 放射線健康リスク・放射線災害医療
- ・ WHO, IAEA, ICRPとの連携
- ・ チョルノービリ、福島原発事故対応
- ・ リスクコミュニケーション・復興支援
- ・ 原子力分野における知見の集積・活用
- ・ グローバルリーダーの輩出
- ・ 原爆後障害医療研究所（1962）
- ・ 福島未来創造支援研究センター（2013）
- ・ 福島県立医大との共同大学院（2016）
- ・ 原子力災害対策戦略本部（2021）
- ・ 福島国際研究教育機構（2023）

核兵器廃絶・平和学研究

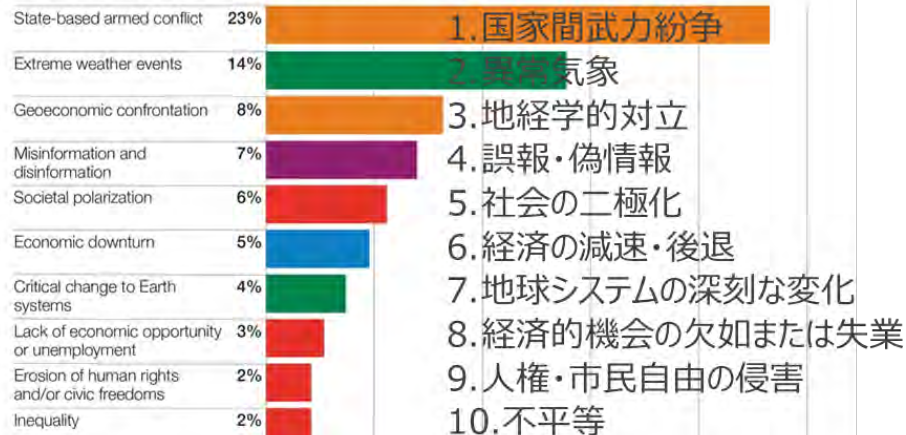
- ・ 核兵器廃絶研究センター(RECNA)
- ・ 多文化社会学部



2024 ～総合知で挑む、地球規模の複合危機～



Top 10 risks selected by respondents (Share of respondents %)



Risk categories: Economic (Blue), Environmental (Green), Geopolitical (Orange), Societal (Red), Technological (Purple)

Source: World Economic Forum, Global Risks Perception Survey 2024-2025

NUテクノロジーイノベーションキャンパス (2024年10月)



CROSS Nagasaki (2025年3月)



統合感染症研究棟 (2026年8月竣工予定)



OVERSEAS RESEARCH & EDUCATION

7 Liaison Offices

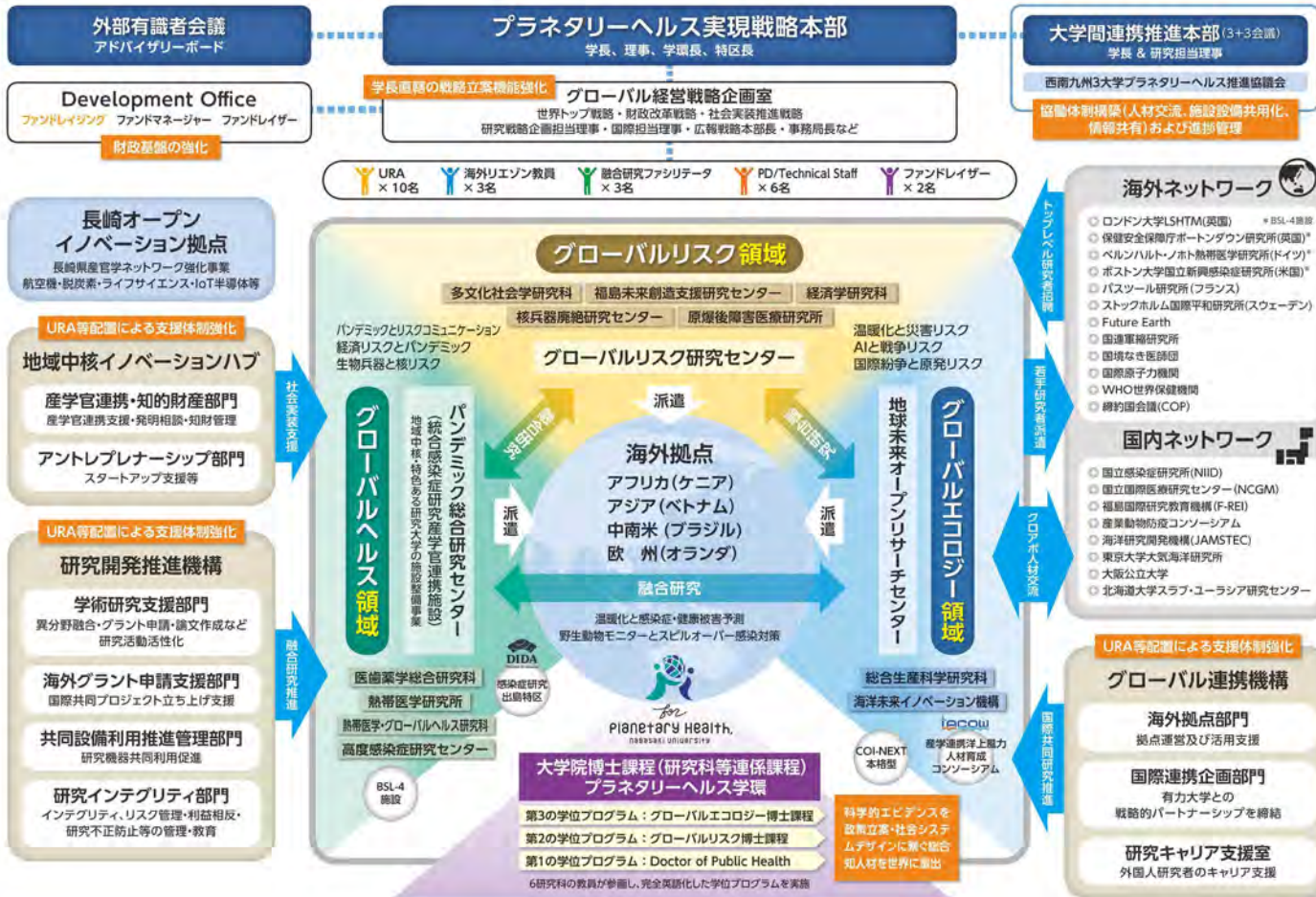
- NLD, FRA, CHN, KOR,
TWN, VNM

6 Education and
Research Stations

- KEN, VNM, UKR, PHL,
GBR, BRA



実施体制



連携大学・参画機関との交流

宮崎大学・鹿児島大学



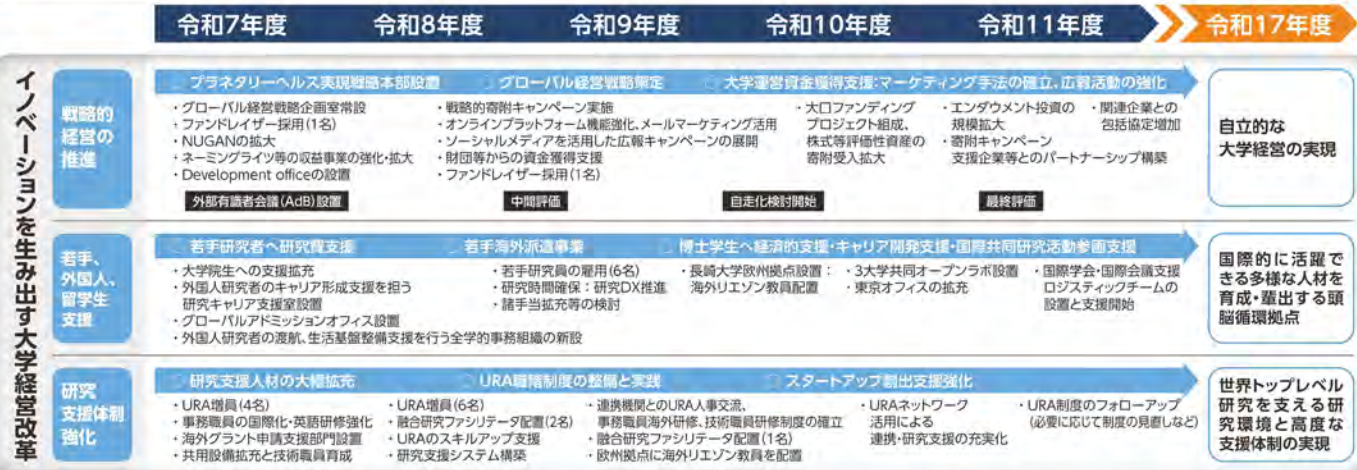
国立健康危機管理研究機構



大阪公立大学



取組内容の時系列イメージ



超領域型研究の取り組み





Thank you for your attention